



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 250

2017/09/01

今月の一枚

今月のイベント

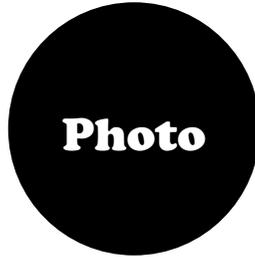
参加者募集

GREEN COLUMN

01. 目撃！ゆりかご作り
02. 驚異の寄生虫 ロイコクロリディウム



今月の一枚



「トンボが集まる花」

表紙写真・文／城坂結実

6月下旬。とあるランの仲間が咲いていると聞き、出かけてみました。ヒロハトンボソウです。花はクリーム色のような地味な色合いです。草丈が50cmほどと大きく、薄暗い林の中でも目立ちます。

花をよく見ると、名前の通り、翅を広げたトンボが集まっているよう。名前をつけた方の観察眼に驚かされました。

Event. 今月のイベント

特別展「美幌なつかしの^{まなびや}学び舎」～10月22日(日)

美幌博物館でお宝をさがせ！ 9月1日(金)～10月1日(日)

博物館講座(歴史編)「縄文時代と琥珀玉」 9月2日(土),3日(日)

プチ工房「やってみよう！草木染め」 9月13日(水),15日(金)

無料開館 9月18日(月)

Information. 参加者募集

美幌博物館でお宝をさがせ！

●9/1(金)-10/1(日) 9:30-17:00 受付で用紙を受け取り参加。ナゾがとけたら終了。 ●美幌博物館 展示室 ●展示室観覧料(高校生以下・町内在住65才以上は無料) ●城坂結実(美幌博物館) ●申込み不要。

プチ工房 「やってみよう！草木染め」

●9/13(水),15(金) 10:00-12:00,14:00-16:00 自由に入室。作品ができれば終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(400円) ●城坂結実(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

博物館講座(歴史編) 「縄文時代と琥珀玉」

【講演会】 ●9/2(土) 10:00-11:30 ●博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●山田哲氏(北見市教育委員会) ●申込み不要。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要、定員50名で締切。

今月の休館日

4日, 11日
19日, 25日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN

グリーンコラム



目撃!

ゆりかご作り

写真・文／城坂結実



植物調査のために野外へ出ると、思いもかけない生きものとの出会いがあります。

先日、植物の写真を撮ろうと、ピントを合わせていたら、7～8mmの黒色の虫が、葉の上にいることに気がつきました。写真の邪魔になるので、どいてもらおうと、顔を上げてよく見ると、オトシブミの仲間でした。

オトシブミは、メスが植物の葉を巻いて、卵を産みつけるための"ゆりかご"をつくる昆虫です。その巻いた葉が、昔の手紙の形に似ていることから「落文」とよばれています。オトシブミ自体はめずらしい虫ではなく、博物館の周りでも、道路に落ちているオトシブミのゆりかごを見ることはあります。しかし、オトシブミがゆりかごを作っている姿に出くわすことは、なかなかありません。

くだん件のオトシブミをよく見ると、葉の

上でゆりかご作りの真っ最中。意外に早いスピードで、葉を切っていきます。早速、カメラのピントを植物から昆虫に切り替えて撮ったのが、上の写真です。ゆりかごが作られていく様子を、最後まで見届けたかったのですが、タイムオーバー。ゆりかご作りの一端が見られただけでもうれしく思い、植物調査に戻りました。

ちなみに、このオトシブミは、オオコブオトシブミといいます。体は艶のある黒色、脚は黄色で、背面に大きなコブが4つあります。オヒョウやイラクサ類の葉を切って、ゆりかごを作るそうです。

野外で生きものを観察している方は、こんな思いがけない出来事に出くわすことも多いはず。その度に感じる、何とも言えない驚きと喜び。これが、生きもの観察を好きになる、理由の一つかもしれません。

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

驚異の寄生虫 ロイコクロリディウム

写真・文／町田善康



皆さんは、オカモノアラガイをご存知でしょうか？おそらく、誰もが一度は見たことがあるカタツムリの仲間、川沿いの森や、ちょっと湿り気のある庭先などの葉っぱの上に、ちょこんと乗っています。大きさは、1～3cmで、肌色をしています。

そんな、オカモノアラガイに寄生して暮らす生き物。それが、ロイコクロリディウム（Leucochloridium）です。彼らの寄生生活は、中間宿主のオカモノアラガイを経て、終宿主の鳥の体内で営まれます。鳥の体内で成虫となり、卵を産み、その卵は、鳥の糞と共に排出され、再びオカモノアラガイに寄生します。不思議なことに、ロイコクロリディウムは、終宿主の鳥の中でしか、成虫になれません。そのため、子孫を残すには、何としても鳥の体内に入らなければならないのです。

では、鳥の糞から出た卵が、鳥の体

内へと、どのように入るのでしょうか？

ロイコクロリディウムは、オカモノアラガイに寄生すると、イモムシのような形と動きをしながら、触覚付近に現れます（写真）。まるで、本物のイモムシと見間違えるような動きでウニウニ。初めて見ると、鳥肌が立つほど気持ち悪い思いをします。しかし、鳥にはごちそうに見えるようで、イモムシだと勘違いして、オカモノアラガイごと食べてしまいます。こうして、ロイコクロリディウムは、終宿主の鳥にたどり着くのです。

さらに、驚くことに、ロイコクロリディウムは、オカモノアラガイが鳥に食べられやすいよう、目立つ明るい場所に出るよう、オカモノアラガイの行動を操作します。

宿主の行動まで変えてしまうとは、本当に恐ろしい寄生虫です。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



9月の下旬に、サハリンへ魚の調査に行くことになりました。2010年に一度、渡航しましたが、そこには、右へ左へ自由に流れる川や、見たことが無いぐらい太く・大きな木がありました。そんな様子が見られると思うと、今からワクワクが止まりません。(町田)